

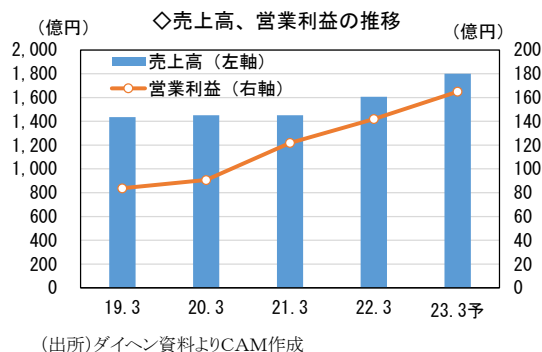
企業ニュース **ダイヘン**

(東証プライム : 6622) <https://www.daihen.co.jp/>

作成者: 奥村義弘

電力機器、溶接メカトロ、半導体関連機器が3本柱

1919年、柱上用変圧器の専門企業として設立。現在では、電力機器、溶接メカトロ、半導体関連機器が3本柱。半導体関連機器で手掛ける高周波電源やクリーン搬送ロボットなどが利益をけん引している。24.3期までの中計では最終年度に売上高2,000億円以上、営業利益率10%以上、ROE12%以上などの数値目標を掲げる。エネルギーマネジメントシステム(EMS)、EV充電インフラなどのグリーンソリューションやロボット・自動化機器などのテラードソリューションへの取り組みを最重点課題とする。22.3期の売上高構成比は、電力機器事業が43%、溶接メカトロ事業が29%、半導体関連機器事業が28%。



半導体関連機器に加え、溶接メカトロも増益寄与へ

22.3期の連結業績は売上高が1,606億円、前期比11%増、営業利益が142億円、同16%増。売上高、利益共に過去最高、配当は5期連続の増配。半導体投資の拡大により、半導体関連機器の営業利益が88億円、同42%増とけん引した。溶接メカトロは増収だが、開発投資の増強により営業利益は横ばい。電力機器は電力会社の更新投資は堅調であったが、一般企業は設備投資を先送りし、利益面では部材価格高騰の影響で営業減益となった。

23.3期の会社計画は売上高が1,800億円、前期比12%増、営業利益が165億円、同16%増。半導体製造装置の需要は高水準。省エネニーズも高まり、増産対応や次世代装置向け開発が課題である。営業利益は半導体関連機器が115億円、同31%増とけん引。加えて溶接メカトロも、中国における販売減などはあるが、独システムインテグレーター「フェミテック」を5月に買収するなど取り組みを強化。国内外のEV投資や自動化関連投資の増加で45億円、同18%増と増益を見込む。電力機器は電力会社の更新投資は堅調、再エネ関連投資は系統用蓄電池や企業向け太陽光の自家消費などの増加を見込むが、部材価格高騰リスクなどを織り込み、45億円、同20%減を計画。

[株価動向・投資判断]

半導体関連機器に加え、EMSやロボット関連への取り組み強化が成果を上げつつある点にも関心が集まろう。

<6622 ダイヘン 業績: 日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
21.3	145,144 (0)	12,183 (34)	13,762 (47)	9,411 (41)	381.3	90.00
22.3	160,618 (11)	14,191 (16)	15,790 (15)	10,985 (17)	445.3	110.00
23.3 予	180,000 (12)	16,500 (16)	17,000 (8)	12,000 (9)	489.1	150.00



[主要株価指標] (売買単位: 100株)

株価 (2022/6/10)	4,335 円
年初来高値 (高値日)	4,810 円 (22/1/4)
同 安値 (安値日)	3,530 円 (22/4/27)
予想 P E R (23.3 予)	8.9 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	4,063.1 円
P B R	1.07 倍
予想配当利回り	3.46 %
(1株当たり配当金年150.00円)	
ROE (22.3)	11.5 %
発行済み株式数	2,710 万株